

Ⅲ 茨城県高萩市高戸

1-1 高萩市の概観

◇位置

東京から北東へ約 150km、茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西には多賀山地が連なっている。

◇面積

193.65 平方 km

◇人口

11,653 世帯／30,194 人(平成 24 年 12 月 1 日現在)

◇主な産業

明治以降、高萩炭鉱、望海炭鉱といった炭鉱町として栄えていたが、エネルギー革命が進む中で石炭産業が衰退してゆき、現在は木材加工業やパルプ工業が中心となっている。

◇交通機関

鉄道は、JR 常磐線の高萩駅のみ。

路線バスとして、市内の西部・南部方面で椎名観光バスが 3 路線を運行している。

市役所の最寄り駅は高萩駅。

1-2 高萩市の震災被害と復興状況

◇被害状況 (付・人口動態)

(1) 人的被害・避難者の状況(平成24年2月1日現在)

①人的被害

区分	人数
死者	1名
重傷者	2名
軽傷者	18名

②住民避難の状況

	3/12(最大)	4/6
避難者数	4,845人	36人
避難施設数	14か所	

・ 4/15 避難所閉鎖

③福島原発関係

避難者	ピーク時	132人
受入れ状況	平成24年8月1日現在	15世帯35人

(2) 建物等の被災状況(平成24年8月31日現在)

①家屋

区分	件数
全壊	219棟
大規模半壊	203棟
半壊	957棟
一部損壊	4,154棟
床上浸水	10件
床下浸水	18件

} 津波による河川からの逆流など。
} 津波の高さは3m程度。

②施設等の損壊

海岸 市内に全5地区海岸	被災した地区海岸数	2か所	
	応急対策を実施した地区海岸数	2か所	
	本復旧を実施する地区海岸数	2か所	平成23年10月に工事着工。
道路	市道通行止め	23路線	平成24年2月1日現在3か所
	県道通行止め	3か所	平成24年2月1日現在0か所
河川	花貫川水系	1河川 2か所	災害復旧事業 (平成23年内に災害査定、24年出水期までに完了)
	関根川水系	1河川 3か所	
教育施設等	学校	市立学校 7校 8件	公立学校施設の災害復旧に係る国庫補助を申請 比較的軽微な被害の学校は23年度中に復旧済み。残りも24年内の復旧完了を目指す。
		県立学校 2校	
		大学 2団体	
	社会体育施設	6施設	軽微な4施設については復旧完了。残り2施設は24年度事業
	社会教育施設	3施設	軽微な2施設については復旧完了。残り1施設は24年度事業

③ライフライン

水道	上水道	全域断水	平成23年3月23日全線通水
	工業用水道	全域断水	平成23年4月13日全線通水
電気		全域停電	平成23年3月15日全域通電

④救援物資 261 件

主な物資：米 6,000kg、水 500ml×86,000 本、非常食 58,000 食

地震による瓦の損傷多数。市内の建物被害の 8 割以上が木造建物であった。

高萩市で観測された津波の高さは 3m ほどだったため、津波による建物の倒壊はなかったものの、床上・床下浸水による被害はみられた。

海岸部では、津波より地震による被害のほうが顕著である。高戸海岸、高戸小浜海岸では海岸崖が大規模に崩壊、高萩海岸の北部の河川河口部においては、護岸が沈下する被害が生じた。

<人口動態> (単位：人)

高萩市の人口の増減については、以下の通りである。 ※()内は、前年比

		人口	男	女
平成 23 年	2 月 1 日	30,925	15,113	15,812
	4 月 1 日	30,797	15,049	15,748
	10 月 1 日	30,592	14,942	15,650
平成 24 年	4 月 1 日	30,347 (-450)	14,831 (-218)	15,516 (-232)
	10 月 1 日	30,226 (-366)	14,810 (-132)	15,416 (-234)

外国人登録数(各年 12 月末現在)

H19	H20	H21	H22	H23
163	173	153	161	150

平成 23 年			
3 月		4 月	
転入	転出	転入	転出
88	206	129	245

平均	平成 11 年 3 月～23 年 2 月 *平成 12 年, 17 年, 22 年 10 月を除く						平成 23 年 4 月～24 年 8 月					
	毎月		3 月中		4 月中		毎月		3 月中		4 月中	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
	88.1	106.7	165.8	272.7	142	143.3	81.4	99.5	117	211	142	194

平均と比べると、震災後の人口の流出は顕著である。

◇復興状況

市内全域で停電・断水していたが、電気が 3 月 15 日に通電、上水道は 3 月 23 日(工業用水道は 4 月 13 日)に通水した。

市役所本庁舎では地震により壁が崩壊したため総合福祉センター等を仮庁舎として業務を行っている。その他の学校や公共施設についても、耐震補強や避難階段の整備、また、

津波が起きた際の避難道路の整備等を進めている。さらに、防災井戸、防災行政無線(現在のアナログ方式からデジタル化を実施予定)の整備も行っている。

被災した住家については、平成23年3月18日から災証明書の申請受付を開始し、5月20日までに4,111件の申請があり、うち、3,933件について、証明書を交付。

市への義援金は、平成23年5月20日現在96,402,407円が集まり、被災者の住宅修繕工事費の助成財源として充てられた。

3-3 収録地点について

収録地点：高萩市高戸

◇位置

東は太平洋に面している、市の中央に位置する町である。

◇交通（距離／交通手段）

東京駅から158km。車で約2時間、公共交通機関使用で2時間強。

水戸駅から54km。車で約1時間、公共交通機関使用で1時間強。

市役所から1.9km。車で12分。

・最寄駅：常磐線高萩駅（1.2km）

◇地勢

海岸沿いに防風林が続く。

町の中央を国道6号が、その西側を常磐線が南北に通っている。

茨城県立の海岸公園に認定され、1996年（平成8年）には日本の渚百選に選定された高戸海岸もこの地域にある。高萩市内の海岸地域は主に「有明海岸」「高戸海岸」「赤浜海岸」の3つの地域に分けられているが、高戸海岸は3地域の中央付近に位置している。

◇行政区画

高戸地区

◇人口・戸数(4/1 現在)

人口総数（男・女）／戸数

2010年 1,295人（659人・636人）／497戸

2011年 1,324人（649人・675人）／509戸

2012年 1,333人（637人・696人）／506戸

◇産業（生業）

主な産業は、漁業と観光業(海水浴場あり)。

【出典】 * 《 》 中は各ホームページへのアクセス年月日

○高萩市ホームページ

- ・「行政」>「市の紹介」>「市の概要/アクセス」

<http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/index.php?code=186> 《2013.1.17》

- ・「お知らせ」>「東日本大震災被害状況(平成24年8月31日現在)」

http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/cms/data/doc/1347323778_doc_84_0.pdf 《2012.10.2》

- ・「お知らせ」>「高萩市復興交付金事業計画(第2回申請)」

<http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/news.php?code=976> 《2012.11.2》

- ・「行政」>「市長室」>「施政方針」>「平成23年6月施政経過報告」>「平成23年6月施政経過報告」

<http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/index.php?code=823> 《2012.11.2》

○高萩市観光協会ホームページ>「歴史を学ぶ」

<http://www.takahagi-kanko.jp/history/> 《2013.1.17》

○復興庁ホームページ内「事業計画(茨城県高萩市)」

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/215ibaraki02takahagi.pdf> 《2012.11.1》

○東北地方太平洋沖地震による茨城県北部の災害調査報告

<http://www.kz.tsukuba.ac.jp/~kanakubo/ibaraki0323.pdf> 《2012.11.2》

○東北地方太平洋沖地震地盤被害調査報告書(速報版:その5)2011年3月28日作成、茨城大学工学部都市システム工学科 防災・環境地盤工学研究室

<http://www.jiban.or.jp/file/ibarakiunivno5.pdf> 《2012.11.2》

○茨城県ホームページ

- ・国際課>データ集>「外国人登録者数(市町村別)」

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/seikan/kokuko/jpn/data/01-03.xls> 《2012.10.26》

- ・「いばらき統計情報ネットワーク」>「茨城県の人口と世帯(推計)月報」>「茨城県の人口と世帯(推計)ー平成24年12月1日現在ー」

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/getsu/jinkou1212.xls> 《2013.1.16》

以上、1-1, 2 に関して

○茨城県ホームページ いばらき統計情報ネットワーク > 分野別(人口) 《2012.11.8》

- ・「茨城県の人口(町丁字別)」(平成22年4月1日現在):水戸市~小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza22/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口(町丁字別)」(平成23年4月1日現在):水戸市~小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza23/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口(町丁字別)」(平成24年4月1日現在):水戸市~小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza24/hyou02-1.xls>

以上、1-3 に関して

2 高萩市高戸の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

茨城県の方言は福島県や栃木県の方言との類似が指摘されることがある。こうした指摘は無アクセントである点などに基づくものである。高萩市の方言は自動詞述語を派生する形態法で福島県と共通する側面がある。そして、この特徴は県南の方言には見られないものである。このような福島方言との共通性は高萩市が県北に位置していることと関係があるものと考えられる。

茨城方言の下位区分に関しては北部・西南部・南部の三つに分かれるとする説（田口 1939）と県北、浜言葉、県央、霞ヶ浦北浦周辺、県南西、利根川流域の六つに分かれるとする説（読売新聞 1967）がある。高萩市の方言はいずれの分類においても北部（県北）の方言に分類される。

音韻

(1) 子音が先行しない環境で標準語の/i/に対応する母音が[e]の音価を持つことが茨城県下の方言に関して指摘されている（宮島 1961）。この方言でも標準語の/i/が/e/に対応することはある。「威張る」が[ebaru]と発音される。ただし、調査協力者の発音を観察する限りでは、この現象は生産的ではないようである。

(2) シュがシと発音されることがある。「主人」の音価は[ʃiʒiN]である。

(3) 茨城県下の方言には標準語の連母音 ai、ae、ie に対応する要素が[e:]になる傾向がある。調査協力者の発音を観察する限りでは、この傾向は限定的である。標準語の ai が[e:]に対応するのは、mi-de:（見たい）や mi-ne:（見ない）のような接尾辞や te:ra（平ら）などの語彙に見られる。標準語の ae が[e:]に対応する例としては ke:p-pe（帰ろう）がある。ie が e:に対応する例としては、ke:-ttʃat-ta=ga=na（消えちゃったかな）、me:-ne=na（見えないな）がある。

(4) 語中・語尾のカ行子音・タ行子音の有声化が見られる。「堅い」は[kade:]、「坂」は[saga]と発音される。

(5) 茨城県下の他の地域では、語中のジ・ビ・ズ・ブの無声化が生じる傾向がある。この現象は、ジ・ビ・ズ・ブに無声子音が後続する環境で生じる。この現象はこの方言でも見られる。「2時間」は[nitʃikaN]と発音される。「座布団」は[dzapputoN]と発音される。

(6) 無声子音で始まる接続助詞が後続するとき活用語尾「ル」が促音化する傾向がある。ケーッカラ マッテロ「帰るから、待っている」、雨フット イーネ「雨が降るといいね」。

(7) 茨城県下の方言の大部分では語彙的なアクセントの対立がない。この方言も同様である。

文法

(1) 比較の格助詞はヨッカが用いられる。例：犬メヨッカ 猫メガ イー。

(2) 否定接尾辞-ne:に接続するカ行変格活用動詞「来る」の形式は ko-ではなく ki-である

(ki-ne:). これは、否定推量接尾辞-me:の場合も同様である (ki-me:). ただし、これらの特徴は今回収録した談話には反映されていない。

カ行変格活用動詞のコという形式は命令を表す形式で用いられる (ko:「来い」)。カ行変格活用動詞の仮定形はクレバである。

(4) コピュラの仮定形は=nara ではなく=dara である。例：明日ダラ 都合いいよ。形容動詞の仮定形も同様である。例：丈夫ダラ ドゴサデモ イゲル。

(5) 一段活用動詞に接続する使役接尾辞の異形態は/-rase/である (uge-rase-ru (受けさせる))。

(6) 推量・意志の接尾辞「べ」および「ぺ」が用いられる。例：クッペ (来るだろう)。

(7) 格助詞に関しては、次のような特徴がある。方位格の格助詞サが用いられる点は、茨城県の他の地域と同様である (dogo=sa ig-u=no (どこに行くの))。茨城県内には直接目的語がゼロ格形式もしくは格助詞ゴドで表される方言が多い。高萩の方言にも同様の傾向がある。カ° は文の主語を表すだけでなく、名詞句内で所有者を表すことがある (ore=ŋa mono (私のもの))。

(8) 「ガン」で「～のもの」を指す。例：オレガンダ (俺のものだ)。

(9) 形容詞の否定形は連用形ではなくガで終わる語幹に否定接尾辞が付くかたちで形成される。例：サムガネー (寒くない)、ミチカガネー (短くない)。ガが連続する場合に一つのガが脱落することがある。例：アッタガネー (暖くない)。

(10) 他動詞語根に-ar がついて形成される自動詞が標準語より広い範囲で見られる。「布団干サッテル」(布団が干してある)に見られる hos-ar-や「スイッチ 押サッテル」に見られる os-ar-に対応する自動詞は標準語にはない。また、アグ (開く) とアガルのようにほぼ同じ意味の 2 種類の自動詞がある場合もある。このような自動詞化の生産性は福島県の方言と共通の特徴である。

(11) 丁寧な表現として「～シテクンニャ」「～ナンシヨ」(ともに「～してください」)が用いられていた。しかし、現在はあまり用いられない。

語彙

(1) 一人称は、男性の場合オレを使う。複数形はオイラである。かつては、女性もこの代名詞を用いたが、現在はワタシを使うことが多い。二人称は、オメ (-) である。

(2) かわいいを「メンコイ」という点など東北地方の方言との共通の語彙が見られる。

(3) 動物に指小辞メを付ける傾向がある。カンメ (蚊)、トリメ (鳥)、ウシメ (牛)、ブダメ (豚)。

参考文献

- 田口美雄(1939)「方言」『総合郷土研究 下巻』茨城県師範学校・茨城県女子師範学校編.
272-290. 茨城県.
- 宮島達男(1961)「方言の実体と共通語化の問題点 6 福島・茨城・栃木」『方言学講座第2巻
東部方言』東条操監修. 236-63. 東京堂出版.
- 読売新聞社(1967)『茨城の民俗』鶴屋出版部.



写真1 現在の高戸海岸1 岩の形や砂浜の変化が著しい



写真2 砂浜が広がる、かつての高戸海岸2 (I氏 写真提供)



写真3 現在の高戸海岸2



写真4 砂浜が広がる、かつての高戸海岸2 (I氏 写真提供)



写真5 海拔標識1



写真6 海拔標識2

3 高萩市高戸の談話

3-1 高萩市高戸の談話資料の概要

収録地点

茨城県高萩市高戸

収録日

談話A（自由談話）…平成12（2012）年9月27日

談話B（場面設定）…平成12（2012）年9月29日

話題（収録時間）

【震災当日のこと、津波による建物の被害】（10分47秒）

話者

話者A 女性 1945（昭和20）年 （収録時67歳）主婦

話者B 女性 1947（昭和22）年 （収録時65歳）農業

話者C 男性 1943（昭和18）年 （収録時68歳）農業（元会社員）

3-2 高萩市高戸の談話A (自由会話)

【震災当日のこと、津波による建物の被害】

収録時間 10分47秒

話し手

A	女	1945 (昭和20)年	(収録時67歳)	
B	女	1947 (昭和22)年	(収録時65歳)	
C	男	1943 (昭和18)年	(収録時68歳)	
D	男	1966 (昭和41)年	(収録時45歳)	[調査者1]
E	女	1957 (昭和32)年	(収録時54歳)	[調査者2]

001A : ウチニ イタ。
うちに いた？

002B : イナイ。
いない。

003A : イナガッタ。
いなかった。

004D : ドチラニー。
どちらに？

005B : ハシノ ウエ。
橋の 上

006C : ハシノ ウエ。タカドオーハシノ。
橋の 上。 高戸大橋の。

007B : タカドオーハシッテ アルデシヨ。アノ コー。
高戸大橋って あるでしょ。あの コー。

(C イマー コーソクドーロカラ) コーソクドーロカラ コー オリテクトゴ。

(C 今一 高速道路から) 高速道路から コー 下りてくるところ。

(D ハイ) アノ センロトー (E ア センロノ ウエノ ハシ)

(D はい) あの 線路と (E あ 線路の 上の 橋)

アノ コクドーノ ウエ。アソコニ イタンデス。
あの 国道の 上。あそこに いたんです。

008E : センロノ ウエノ ハシ。
線路の 上の 橋。

009C : ハイ ソー アソコノ マウエニ イマシタ。
はい そー あそこの 真上に いました。

010A : ア ンジャ クルマデ。
あ じゃ 車で。

011B : ソ。
そ。

012C : チョード ソノトキワ イマノ ケーノ ジドーシャデ ニモツ ツンデ。
ちょうど そのときは 今の 軽の 自動車で 荷物 積んで。

サンテンイチイチワ ソーデスネ。
3・11は そうですね。

013B : チョード アノー アレ ノーキョーノ ジョセーブノ
ちょうど あのー あれ 農協の 女性部の

ソーカイカ° アッタ ヒナダヨネ。
総会が あった 日なんだよね。

014A : ア ソーソーソー。ゴゼンチューワ ソレ ソーカイ ヤッテキテネ。
あ そうそうそう。午前中は それ 総会 やってきてね。

015B : ソーソー。
そうそう。

016A : カエッテキテー アタシラワ ウ イエニ イタノ。
帰ってきてー あたしらは × 家に いたの。

017B : ウチネ。ソレデ ワタシモ ゴハン タベテ ソシテ アノー。
うちね。それで 私も ご飯 食べて そして あのー。

018A : デガゲダンダ。
出かけたんだ。

019B : カインズエ アノ カイモノニ イコート (C カイモノニ)
カインズへ あの 買い物に 行こうと (C 買い物に)

オトーサント デガゲダノ。(A ウーン)
お父さんと 出かけたの。(A うーん)

デ チョード アノ タカドオーハシノ チョード。
で ちょうど あの 高戸大橋の ちょうど。

020A : マウエ。
真上。

021B : マウエ。テツドーノドゴエ カカ° ッテル トゴロデ イマー アトデ
真上。 鉄道のところへ 掛かっている ところで 今 後で

コー イマ ナオシカ° ハイッテンダゲット、アノネ。コレカ° ネ
こう 今 直しが 入ってたんだけど、あのね。これがね

パクパクパクパク。(A アー ナッテダノ アイヤー)
ぱくぱくぱくぱく。(A あー なつてたの あいやー)

022C : ツナキ° メ、ジョイント。
結び目、ジョイント。

023B : ツナキ° メ
結び目

024A : アイヤー。
あいやー。

025B : ソレカ° ネ コー ユレテ。
それがね こう 揺れて。

026C : スコ° カッタデス。
凄かったです。

027B : スコ° ガッタデス。(C サイショノ ユレワ)
凄かったです。(C 最初の 揺れは)

028A : デ、マ、ジシンダト オモッタ。
で、ま、地震だと 思った。

029C : サイショノ ユレワ タイシタコト ナイト オモッテ (B ソーソーソーソー)
最初の 揺れは 大したこと ないと 思って (B そうそうそうそう)

ソレデ ユックリ ハシッテタ。ホーシタラ チョード マンナカヘンコロシ
それで ゆっくり 走ってた。 そうしたら ちょうど 真ん中あたりに

ナッタラ グラグラッテ キテ。
なったら ぐらぐらッテ 来て。

030B : ソレデ アソコニ コーネ デンチューカ° アルンデスヨ。
それで あそこに こうね 電柱が あるんですよ。

テツドーノドゴロノ デンチュー。アレカ° アメノヨーナンデス [1]。
鉄道のところの 電柱。 あれが 飴のようなんです。

(A ウワー)

(A うわー)

031C : スコ° カッタデスヨ。
凄かったですよ。

032D : ソンナニ デンチューカ° 。
そんなに 電柱が。

033B : ソ。ソレデ ワガッタノ。マルデ アノネ。エートー ナンテ ユーンダローネ。
そ。それで わかったの。まるで あのね。えーと なんて 言うんだらうね。

コー アバレテルッテ ユーガ コー アノ。
こう 暴れてるって いうか こう あの。

034A : ヨココレ。
横揺れ。

035B : ア ソーソー。ソレカ° ネ コー コーユー アレジャ ナインデスヨ。
あ そうそう。それがね こう こういう あれじゃ ないんですよ。

コーナンデス。
こうなんです。

036C : モノスコ° イ。シナッテ。
もの凄い。 しなッテ。

037B : コーレワ スコ° イ ジシンダナーッテ モー ソンドギ オモッテ。
これは 凄い 地震だなーって もう そのとき 思ッテ。

038C : デ ワタシラ シートベルトデ トマッタンデスヨ、シートベルトワ
で 私ら シートベルトで 止まったんですよ。シートベルトは

ヤッテタカラネ。 ソレカ° トナリノ (B ソーソーソーソー) コンナ。
やっていたからね。 それが 隣の (B そうそうそうそう) こんな。

039B : ソレデ モー ドアナンカ ゼンゼン モー アカナイノ。(C アカナイ)
それで もう ドアなんか 全然 もう 開かないの。(C 開かない)

040A : アガナイノ。アーソー。
開かないの。あーそー。

041B : ドア アガナイ。
ドア 開かない。

042C : スコ° カッタ。
凄かった。

043B : ソレデネー アノ ハシノ ツキ° メカ° パクパクパクパクッテ。
それでねー あの 橋の 継ぎ目が パクパクパクパクッテ。

(C ソ ジョイントカ°)
(C そ ジョイントが)

044A : ウワー コワガッタネー。
うわー 怖かったねー。

045B : デ イチバン アタマニ オモイツイタノカ° アノ ハンシンノ
で 一番 頭に 思いついたのが あの 阪神の

シンサインドギニ アノ ハシケ° ダ コワレマシタヨネ。(C ウーン)
震災の時に あの 橋桁 壊れましたよね。(C うーん)

ダガラ イッシュン アー ヤバイト オモッタデスヨ。
だから 一瞬 あー やばいと 思ったんですよ。

046E : オチルカト オモイマスネ。
落ちるかと思えますね。

047B : アレ オチタラバ ウチラ オワリデス。(C アウト)
あれ 落ちたらば うちら 終わりです。(C アウト)

048A : ウシロガラ コナガッタノ、クルマ。
後ろから 来なかったの、車？

049C : ウン ウシロワ コナカッタ。
うん 後ろは 来なかった。

050A : マエモ。
前も？

051C : マエワ (B マエワ) トラック。
前は (B 前は) トラック。

052B : トラックカ° トマッテタ。
トラックが 停まったた。

053A : ア トマッテタ。
あ 停まったた。

054B : ソノ トラック タカイデシヨ。ハシガラ アブナグ オチソニ ナッテ。
その トラック 高いでしょ。橋から 危なく 落ちそうに なって。

(A ウワー)
(A うわー)

055C : コー ムキカ° カワッタノ。
こー 向きが 変わったの。

056A : カワッタノ。(B ソー) イヤイヤイヤイヤ。
変わったの。(B そう) いやいやいやいや。

057D : トマッテル トラックノ ムキカ°。
停まってる トラックノ 向きが。

058B : トラックカ°。
トラックが。

059C : トラックカ°。ソーノクライ ユレタノ。
トラックが。そのくらい 揺れたの。

060A : イヤイヤイヤイヤ。
いやいやいやいや。

061B : トラックカ° コー。
トラックが こー。

062C : アララララッテ ユー カンジデ。ウチラ ニカ° アッタガラ
あららららって いう 感じで。うちら 荷が あったから

ケーデモ チャント ナンチューンデスカ。
軽でも ちゃんと 何というんですか。

063B : ソンダッテ コー。
そんだって こう。

064C : ヨコニ。
横に。

065B : ソレデ ウシロ ミタラネ アレ スキ° カフンダッテ ユーンデスケドネ
それで 後ろ 見たらね あれ 杉花粉だって いうんですけどね

ヤマカ° マッシロン ナツタンデス。
山が 真っ白に なったんです。

066A : ユレテ。
揺れて。

067B : ソノ ユレタトキ。(A サンカ° ズジューイジンチ) チョード
その 揺れたとき。(A 3月11日) ちょうど

スキ° カフンノコロデスヨネ、(? _____)
杉花粉のころですよ、 (? _____)

サンカ° ズジューイジンチ。ソレデネ ヤマカ° ネ アノー ホコリッテユーカ
3月11日。 それでね 山がね あのー 埃っていうか

カフンナンデスネ。ユレテ。
花粉なんですよ。揺れて。

068C : スコ° カッタデスヨ。
凄かったですよ。

069B : ソレデ ユレ オサマッテ ソレデ アノー トラックカ°。
それで 揺れ 収まって それで あのー トラックが。

070C : ウンテンシュカ°。
運転手が。

071B : ウンテンシュカ° ヤー シヌ シヌト オモッタ。
運転手が やー × 死ぬと 思った。

072A : デモ アレ アノ ジシン ナカ° ガッタモンネ。カナリ ナカ° ナカ° グ
でも あれ あの 地震 長かったもんね。 かなり × 長く

カンジダ。 ナンプンク° ライダッタンダロ。
感じた。 何分ぐらいだったんだろう?

073B : ソシテ コンド イソイデ アノ スコシ オサマッタガラト オモッテ
そして 今度 急いで あの 少し 収まったからと 思って

シタ オリテキタラ モー ウチ ココ ハイッテキタラ モー ミンナ
下 下りてきたら もう うち ここ 入ってきたら もう みんな

アノ ブロックベーカ° ミンナ タオレデ。
あの ブロック塀が みんな 倒れて。

074A : タオレデネ。
倒れてね。

075C : オーヤイシノ。
大谷石の。

076B : ミンナ タオレチャッタ。
みんな 倒れちゃった。

077A : ンダネ。 ニシジョーノホー ミンナ オーヤイシダモンネ。
そうだね。西条のほう みんな 大谷石だもんね。

ダゲド、(B ソレデー) ブロック タオレナイノネ、(B ソ ブロック) アレ。
だけど、(B それでー) ブロック 倒れないのね、(B そ ブロック) あれ。

078B : ソ ウチノ ブロック タオレナカッタノ。
そ うちの ブロック 倒れなかったの。

079A : タオレナガッタネ。
倒れなかったね。

080B : オーヤイシノ ヒトラカ° ホドント ゼンメズデスネ。
大谷石の 人らが ほとんど 全滅ですね。

081A : テッコツ ハイッテル アレワ タオレナイノ。
鉄骨 入ってる あれは 倒れないの。

082B : ソーソー。 オーヤイシデモ オーヤイシジャ ニ ニセタヨーナネ
そうそう。大谷石でも 大谷石じゃ × 似せたようなね

ココミタイナノ タオレナイノ。(A ウーン ウーン) ナガニ コー
ここみたいなの 倒れないの。(A うーん うーん) 中に こう

ハイッテル。
入ってる。

083D : オーヤイシノ ソノ マ ヘートユーカ ソレデ ツクッテイタコロワ
大谷石の その ま 塀というか それで 作っていたところは

タオレタンデスネ。
倒れたんですね。

084B : ゼンブ タオレマシタ。
全部 倒れました。

085C : イマモ カタズケナイデ オイテアリマスヨネ。アレカ° ザンカ° イデスネ。
今も 片付けしないで 置いてありますよね。あれが 残骸ですね。

086B : ウチ ウミノホーニネー アノ オーヤイシデ ツクッタ ウチカ°
うち 海のほうにねー あの 大谷石で 作った うちが

アッタデスヨ。ニカイン ナッテ。ソコワ モー X1 [2] サンノ
あったんですよ。二階に なって。そこは もう X1さんの

ウチナンデスケド ツブレッチャッタ。
うちなんですけど 潰れちゃった。

087D : ゼンカイ。(C ン ゼンカイ)
全壊。(C ン 全壊)

088B : ン ツブレッチャッタ。ソレデ ナカデ オーバーサン X2サン
ン 潰れちゃった。それで 中で おばあさん X2さん

ネデダデシヨ。アブナガッタ。ソノ オーヤイシカ° コー。ネテ
寝てたでしょ。危なかった。その 大谷石が こう。寝て

ネタッキリナンデスヨ。オーバーチャンネ ヒトリデ イタンデスケド。ソノ
寝たつきりなんですよ。おばあちゃんね 一人で いたんですけど。その

チョード ベットノトゴエ コー オーヤイシカ°。
ちょうど ベットのところへ こう 大谷石が。

089E : ウワー。(B モー)
うわー。(B もう)

090A : X2 サンドゴニワ オッコッテコナクテ。
X2さん[の]ところには 落っこちてなくて。

091B : アド スコシダッテ。
あと 少しだって。

092A : ウワー。
うわー。

093B : アト スコシッテ ユードゴデ アレ シタラ モー オーバーサン ダメダッタ。
あと 少してって いうところで あれ したら もう おばあさん ダメだった。

094A : アノ X 2 サンノ イルトゴワ フツノ アレダ、モクゾーデシヨ。
あの X 2 さんの いるところは 普通の あれだ、木造でしょ。

095B : ウーウン ソーソソ。
うん そうそう。

096A : ムコーモ ナンツノ ヒカ° シカ° ワカ° 。
向こうも 何ていうの 東側が。

097B : ヨースルニ オーヤイシデシヨ、ニガイモ。ンダガラ アノ オーヤイシワ
要するに 大谷石でしょ、 二階も。 そうだから あの 大谷石は

コー クズレチャッテ。(A アー ソーク) ソレデー ソレデネ ウチノ
こう 崩れちゃって。(A あー そうかい) それで それでね うちの

オヤカ° ワタシラモ ウマレタトゴナンデスケド ウチノ オヤカ°
親が 私らも 生まれたところなんですけど うちの 親が

イタノカ° ウミノホーナンデスヨ。
いたのが 海のほうなんですよ。

098A : テーボーノ スク° ダッタノネ。
堤防の すぐだったのね。

099B : ウン テーボーノ コゴノ マッスク° イッタトゴネ。
うん 堤防の この まっすぐ イッタところね。

ウミッパタッテ ユーカ。
海辺と いうか。

100A : テーボーノ スク° ワギネ。
堤防の すぐ 脇ね。

101B : ソーソー。ソレデ モー ウチカ° フルイカラネ モー ジシンデ
そうそう。それで もう うちが 古いからね。 もう 地震で

ダメカナート オモッテ ンデモ イチオー ミニ イコーッテワゲデ
だめかなーと 思って それでも 一応 見に行こうってわけで

ソレデ アノ カエッテキテ コゴデ ウジノ ハハカ° イルモンデスカラ
それで あの 帰ってきて ここで うちの 母が いるものですから

アノー タシカメテ バーチャン ドーシテーツツッタラバ
あの一 確かめて ばあちゃん どうしたったよって言ったらば

ダイジョブダヨッテ ユーガラ ア ンジャド オモッテ ムゴー
大丈夫だよって 言うから あ それじゃあと 思って 向こう

イッタデショ ソシタラネー モー ナンテーノ ウミカ° ヒーテ
行ったでしょう そうしたらね もう 何て言うの 海が 引いて

キタンデス。ハヤガッタデス。
きたんです。早かったです。

102C : ウミカ° コー ヒーテンノ。
海が こう 引いてんの。

103A : オキニネ。
沖にね。

104B : オキエ モー。
沖へ もう。

105A : ウミノホーモ ミタノ。(B ミタノ) ウワ コワー。
海のほうも 見たの? (B 見たの) うわ 怖ー。

106C : ジブンノ ジッカカ° ヤラレッチャッタガナト オモッテ イッタラ
自分の 実家が やられちゃったかなと 思って 行ったら

(B ソーソーソーソー) タッテタカラ アー ヨガッタ。
(B そうそうそうそう) 建ってたから あー 良かった。

107B : マー タッテタンデス、ソントキ。
まー 建ってたんです、そのとき。

108C : ンデー スク° ウミ ミタノ。コンナ デカイ ジシンダカラ ヤバイナト
それで すぐ 海 見たの。こんな でかい 地震だから やばいなど

オモッテ ソシタラ ヒーテッタカラ ア コリヤー モー ツナミ
思って そうしたら 引いてったから あ これは もう 津波

クルツチャー。
来るっていう。

109B : ドンドンドンドン ヒーテキタンデスヨネ。ダカラ アー コレワ モー
どんだんだんだん 引いてきたんですよ。だから あー これは もう

ヤバイッテ イソイデ スク° モドッテキテ アノ ココ
やばいって 急いで すぐ 戻ってきて あの ここ

ジョーヨーシャエ ノッテ ウエノ タガダイエ ニケ° ダンデスヨ。
乗用車へ 乗って 上の 高台へ 逃げたんですよ。

110A : ソンドギワ モー アレゲ アノー ショーポーノ ヒトタチカ° ー。
そのときは もう あれかい あのー 消防の 人達がー。

111B : マダ (C ア マダ) ユッテナガッタ。
まだ (C あ まだ) 言ってなかった。

112A : ソンドギワ ユッテナガッタ。
そのときは 言ってなかった。

113B : ソンドギワ マダ ショーポーモ ナンニモ コナガッタ。ソレデネ
そのときは まだ 消防も 何も 来なかった。それでね。

アノ ムコーノ ヒトラ ヤー ノセデッテッテ ユーガラ
あの 向こうの 人ら やー 乗せてってーって 言うから

(C デ キンジョノ) キンジョノ ヒトラコト ノセデ タガダイエ。
(C で 近所の) 近所の 人らを 乗せて 高台へ。

(C タカダイエ)
(C 高台へ)

114A : アノネ タカハキ° レーエンネ マデ イッタンデシヨ。(B ウチラ)
あのね 高萩霊園ね まで 行ったんですよ。(B うちら)

115B : ウチラ コドモノコロネ アノ チリオキジシンッテ ユーノオ
うちら 子供の頃ね あの チリ地震って いうのを

チョット ケーケン シテルンデスヨ。チリノ。ソノトキモ アノ
ちょっと 経験 してるんですよ。チリの。そのときも あの

ヤッパリ アノー ウミカ° ー モノスコ° ク ヒータンデスヨネ。ダカラ
やっぱり あのー 海がー もの凄く 引いたんですよ。だから

ツナミカ° クルッテ ユートキワ ウミカ° ヒクッテ ユーノワ モー
津波が 来るって いうときは 海が 引くって いうのは もう

コー アタマニ ハイッテタカラ。(A アタマニ アッタノ) ダカラ ホラ
こう 頭に 入ってたから。(A 頭に あったの) だから ほら

ニケ° ローッテ。
逃げろーって。

116C : ソレト アト オヤカラモ キーテマシタカラネ、チリオキノトキノ
それと あと 親からも 聞いてましたからね、チリ沖のときの

ジシンノ ヨースオネ。ダカラ。
地震の 様子をね。だから。

117B : ダカラ ウミワ チカズクナッテネ。
だから 海は 近づくなつてね。

118A : ウミノ ソバダガラネー。ソレワ キオ ツケナイトネ。
海の 側だからねー。それは 気を つけないとね。

119B : ダカラモ ムコーノ ウチ イチオー モノオキニ シテタカラ
だからも 向こうの うち 一応 物置に してたから

アノー ソレー ノーキク° ナンカ イレトイタンデスヨ。ダケド
あのー それー 農機具なんか 入れといたんですよ。だけど

ソーユーノモ ゼンゼン アタマニ ナクテ モー ニケ° ルタケデスヨ。
そういうのも 全然 頭に なくて もう 逃げるだけですよ。

120A : ニケ° ルイツソダモンネー [3]。ソーダヨネー。
逃げるばかりだものねー。 そうだよねー。

121B : ダカラ トラクター ダメン ナッチャッタンデスケド。
だから トラクター ダメに なっちゃったんですけど。

122D : ソコワ ヤッパリ ツナミカ° キテ。
そこは やっぱり 津波が 来て？

123B : ヨンメートルガラ ゴメートル ハイリマシタ。
4メートルから 5メートル 入りました。

124E : ソコノ シューカイジョノトコロニ ヨンテンナンメートルッテ ユー。
そのの 集会所のところに 4点何メートルって いう。

125A : ア カイバツネ。
あ 海拔ね。

126B : ダカラ ウチノ イママデノ ウチカ° マエ タカイ コッチ ウメタデ シテ
だから うちの 今までの うちが 前 高い こっち 埋め立て して

ツクッテアッテ アド コッチワ タカイドゴナンデスケド チョード
作ってあって あと こっちは 高いところなんですけど ちょうど

コーネ アノー ナンテ ユーンドロ (C ヒクク) ヒククナッテダンデスヨ。
こうね あのー 何て 言うんだろう (C 低く) 低くなってたんですよ。

ダカラ ウチノ ウチエ バーッテ コー ハイッテキタガラ ダガラ コッチ
だから うちの うちへ ばーって こう 入ってきたから だから こっち

タスカッタケド アレ ウチノ ウチカ° タガガッタラ。
助かったけど あれ うちの うちが 高かったら。

127C : コッチノホームデ ハイッテキタゾ。(B ハイッテキタゾ)
こっこのほうまで 入ってきたぞ。(B 入ってきたぞ)

128E : ノーキク° オ オイテタトコロノ ゴジッカノアタリ。
農機具を 置いてたところの ご実家のあたり。

129B : ア ソーデス。アソコ ヨンメートルカラ ゴメートルダツツッテマシタ。
あ そうです。あそこ 4メートルから 5メートルだっていってました。

X 1 サンッテ ユー カタカ° ニケ° ナイデ ミテタンデスヨ、
X 1 さんって いう 方が 逃げないで 見てたんですよ、

ヤマノ ウエカラ。
山の 上から。

130A : X 3 サン、X 3 サン。
X 3 さん、X 3 さん。

131B : ソシタラ ウチノ ウチエ コー ワーッテ ハイッテキテ ビックリシテ
そうしたら うちの うちへ こう わーって 入ってきて びっくりして

ソレガラ ヒナン シタツツッテマシタ。モノスコ° イ。
それから 避難 したっていってました。もの凄いの。

132A : X 3 サントゴワ スコシ タガインダネ。B チャンチヨリワネ。スコシネ。
X 3 さんのところは 少し 高いんだね。B ちゃんちよりはね。少しね。

133B : ソーソー。
そうそう。

134A : ホンノ スコシダケントネ。
ほんの 少しだけどね。

135B : タガイ。
高い。

136A : インデモ X3 サンワ ダイジョブダッタ。
それでも X3 さんは 大丈夫だった。

137B : ダイジョブダッタ。ダカラ ウチノ ウチカ° モー コーダッタラ アレ
大丈夫だった。 だから うちの うちが もう こうだったら あれ

ハイッチャッタ。(A ソーダネ) デ トナリノ ウチカ° サンジュッセンチ
入っちゃった。(A そうだね) で 隣の うちが 30センチ

コー ハイッタンデスケド。ウチワ モー メッチャクチャデス。アノー
こう 入ったんですけど。 うち は もう めちゃくちゃです。 あの一

オモヤカラ モノオキ クラッテ アッタンデスケド。モー メッチャクチャ。
母屋から 物置 蔵って あったんですけど。 もう めちゃくちゃ。

ダゲット ゼンゼンネー アノ ココラヘンノカタ ワカンナインデスヨ。
だけど 全然ねー あの こころへんの方 わかんないんですよ。

(B ツナミカ° キタノカ°) シヤクショデワネ アノー ツナミカ°
(B 津波が 来たのが) 市役所ではね あの一 津波が

イチオー ゼンカイツテ アレワ デテンデスケド (D エーエー) アノー
一応 全壊って あれは 出てんですけど (D 一えー) あの一

イチオー ソコエ スンデナカッタンデス。(D アー ハイ)
一応 そこへ 住んでなかったんです。(D あー はい)

ウチノ オヤー トチューカラ フルクナッタカラッテ コッチエ
うちの 親一 途中から 古くなったからって こっちへ

コゴエ ワダシワ ジューショ ウツシタデショ。ダカラ ジューショノ
ここへ 私は 住所 移したでしょ。 だから 住所の

ナイ トコロニワ アノー カンケーナイッテ ユー。シトシテワ モー。
ない ところには あの一 関係ないって いう。市としては もう。

138A : ミトメテ クンネーノネ。
認めて くないのね。

139B : ミトメテ クンネーノ。(A ミトメテ クンネーノ)
認めて くないの。(A 認めて くないの)

140D : マ アノ ソーユウ ソーコヨーナ カタチデ ツカッテ。
ま あの そういふ 倉庫ような かたちで 使って。

141A : ゼンカイシテモ。
全壊しても。

142D : イルト ホショートカワ ナイト ユー。
いると 保証とかは ないと いう。

143B : エー ソー。ミマイキンモ アリマセン。ヤラレゾンツテ ユーノ。
えー そー。見舞金も ありません。やられ損って いうの。

144D : ハー。
は一。

145B : ダカラ タカハキ° シノ カタデ ウチノホー ツナミデ ヤラレタツテ
だから 高萩市の 方で うちのほう 津波で やられたって

ユーノワ ワカンナイジャナイデスカ。 イヤ ハイッタンデスカーツテ
いうのは 分からないんじゃないですか。いや 入ったんですかーって

ビックリ サレッカラ。ダカラ キロクニ ノ キロクニ ノツテナインデショ。
びっくり されるから。だから 記録に × 記録に 載ってないんでしょ。

注

[1] テツドーノドゴロノ デンチュー。アレカ° アメノヨーナンデス。
この文は、電柱が地震で固める前の飴の棒のように揺れたことを表現したもの。

[2] X 1

Xn (nは整数) は人名を指す。

[3] ~スル (ノ) イツソ

この表現は「~するばかり」の意味の表現だが、高萩の方言にもともとある表現ではなく、発話者の配偶者（宮城県出身）の影響によるものの可能性がある。

3-2 高萩市高戸の談話B（場面設定会話）

話し手

A	女	1945（昭和20）年	（収録時67歳）	
B	女	1947（昭和22）年	（収録時65歳）	
C	男	1943（昭和18）年	（収録時68歳）	
E	女	1957（昭和32）年	（収録時54歳）	[調査者1]

(1) あいさつ：朝、道端で友人に会ったときのやりとり

001A：オハヨー。（B オハヨー）Bチャン オハヨーゴザイマース。
おはよう。（B おはよう）Bちゃん おはようございまーす。

002B：オハヨーゴザイマース。キョー イー オテンキダネー。
おはようございまーす。今日 いい お天気だねー。

003A：イー オテンキダネー。ナニ キョーワ。イー シタグ シテッケド。
いい お天気だねー。何 今日は。いい 支度 してるけど。

ナニコ° ドガ アンノ。
何事か あるの。

004B：ウーン チョットー。
うーん ちょっとー。

005A：デガゲンノ。
出かけるの。

006B：チョット ヨージカ° アッテ アノ デガゲンダー。
ちょっと 用事が あって あの 出かけるんだー。

007A：ナニ ギリコ° トー。
何 義理事ー。

008B：ンー ソーダネー。チョット オイワイコ° ドカ° アッテ アノー
んー そうだねー。ちょっと お祝い事が あって あのー

イコーカト オモッテンダ。
行こうかと 思ってるんだ。

009A：タイヘンダネー。
大変だねー。

(2) あいさつ：昼、道端で友人に会ったときのやりとり

001B：コンニチワ Aチャン コレガラ ドゴ イグノー、クルマデ。
こんにちは Aちゃん これから どこ 行くのー、車で。

002A：ン チョット アニキゴド アノー トーリャンセオンセンニ
ん ちょっと 兄貴を あのー 通りゃんせ温泉に

ツレデグガナド オモッテ。
連れてくかなと 思っテ。

003B：アー ソーケ。 イヤ タイヘンダネー。ンジャ キオ ツケテ。
あー そうかい。いや 大変だねー。 それじゃ 気を つけて。

004A：イッシュューカンニ イッシュューカンニ イッペンク° レー ツレデッテ ヤンダ。
1週間に 1週間に 1遍ぐらい 連れてって やるんだ。

005B：アー ソーケ。 ンジャ タイヘンダ。
あー そうかい。それじゃ 大変だ。

006A：スコシ ユックリ サセツト オモッテ。
少し ゆっくり させると 思っテ。

007B：ンジャ タイヘンダ。キオ ツケデネ。イッテラッシャーイ。
それじゃ 大変だ。 気を つけてね。いってらっしゃーい。

008A：ハーイ、イッテキマース。
はーい、いってきまーす。

(3) あいさつ：夕方、道端で友人に会ったときのやりとり

○その1

001A：オバンカタター。オバンカタデスカ。
おばんかたー。「おばんかたです」か。

002B：オバンカタデスー。
おばんかたですー。

○その2

001A：オバンカタデスー。
おばんかたですー。

002B : ハーイ オバンカタデスー。
はーん おばんかたですー。

003A : ナニ トッテンノ、Bちゃん、オソグマデ。(B ウーン イマー) ユーカ° ダ
何 とってるの、Bちゃん、遅くまで。(B うーん 今一) タ方

オソグマデ。
遅くまで。

004B : ナスカ° デッカグ ナッチャッター。トンナクチャ ナンナイカラー。
茄子が 大きく なっちゃってー。とらなくちゃ ならないからー。

005A : アーソー。
ああそう。

006B : イマー トリニ キタンダ。
今一 とりに 来たんだ。

007A : クラグ ナンネウジ カエッタホーカ° イーヨ。
暗く ならないうちに 帰った方が いいよ。

008B : アーソーダネー。コゴラヘン ブッソーダガラネ。
ああそうだねー。ここら辺 物騒だからね。

009A : コワイヨ。
こわいよ。

010B : ハヤグ カエンナイドネ。ヒトリデワ イラレナイカラネ、アブナクテ。
早く 帰らないとね。一人では いられないからね、危なくて。

(A ソーソー) ジャーネ。
(A そうそう) じゃーね。

011A : ジャーネ。
じゃーね。

(4) 夜、道端で友人に会ったときのやりとり

001A : コンバンワ [1]。
こんばんは。

002B : ハーイ コンバンワ。
はーい こんばんは。

003A : ドーゴ イッチキタノ、アンタ オソグマデ。
どこ 行ってきたの、あんた 遅くまで。

004B : ベーシャ イッテ キタンダヨ。キョーワ ヤサイダシダガラ
ベイシア 行って 来たんだよ。今日は 野菜出したから

ヤサイ アマッテッカナンカ ミニ イッタンダー。
野菜 余ってるかなんか 見に 行ったんだー。

005A : アー ソーナノ ダシタノゲ、ヤサイ。
あー そうなの 出したのかい、野菜。

006B : ヤサイ キョー ダシタンダヨ。イヤー キョーワ ウレノゴッテルワ。
野菜 今日 出したんだよ。いやー 今日は 売れ残ってるわ。

{笑}

{笑}

007A : イッパイ デデダンダッペッチャ。
いっぱい 出てたんだろう。

008B : ソーカモ シンナイネ。シャーム。 コーユー トギモ アンダガラ。
そうかも しれないね。仕方ないだろう。こういう ときも あるんだから。

009A : ゴクローサマダネー、オソクマデネー。
ご苦労さまだねー、遅くまでねー。

010B : ソーナンドヨ。
そうなんだよ。

(5) 労い : Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとり

○その1

001B : キョーワ ナニ シコ° ト ヤッテルノー。
今日は 何 仕事 やってるのー。

002A : アンタチデ イッパイ ツクッテッカラ タイヘンダネー [2]。
あんたの家で いっぱい 作ってるから 大変だねー。

003B : ソーユーフーナ ンデモ ンー イッパイ ツクッテルツツッテモ コノテード
そういうふうな それでも ンー いっぱい 作ってるって言っても この程度

ナンダゲドネー。
なんだけどねー。

○その2

001A : コンニチワ。
こんにちは。

002B : コンニチワー。
こんにちはー。

003A : キョーワ ナニ アノー ヤサイノ ヤサイ イッパイ ツクッテイテ
今日は 何 あのー 野菜の 野菜 いっぱい 作っていて

(B チガウ ショードグゲーッテ) ショードグゲー。

(B 違う 「消毒かい」 って) 消毒かい。

004B : ソーナンダヨ。ムーシカ° ツイチャッテ。ムーシト ビョーギニ
そうなんだよ。虫が ついちゃって。虫と 病気に

セメラレデッカラ。イヤー アノ イマガラ ショードグ ショード オモッテ
攻められてるから。いやー あの 今から 消毒 しようと 思っ

イマー ミズノ ジュンビ シテンノ。クスリダノ ミズノ ジュンビ シテンノ。
今ー 水の 準備 してるの。くすりだの 水の 準備 してるの。

005A : イッパイ ツクッテッカラ タイヘンダヨネー。
いっぱい 作ってるから 大変だよねー。

006B : イヤー タイシタ シコ° ドジャ。
いやー 大した 仕事じゃ。

007A : デモ Bチャンチノ ヤサイ イー ヤサイバッカリダガラネー。
でも Bちゃんの家 野菜 いい 野菜ばかりだからねー。

008B : インデモ アレダヨ ヤッパリ ムシカ° ツイダリ ビョーギカ°
それでも あれだよ やっぱり 虫が ついたり 病気が

ハイッターシテ タイヘンナンダ。
入ったりして 大変なんだ。

009A : ヨーキカ° ヨーキダガラネー。タイヘンナンダヨネ。
陽気が 陽気だからねー。大変なんだよね。

010B : ソゴナンダヨ、ソー。
そこなんだよ、そう。

(6) 勧め：Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり

○その1

001B：モー ジュージニ ナルカラ ヒトヤスミ シタラーッテ。
もう 10時に なるから 一休み したらーって。

イマ オチャト オカシ モッテキタガラ。
今 お茶と お菓子 持ってきたから。

○その2

001B：イヤー イマー オチャヤスミ シテルカラ アノー ヨガッタラ イッショニ
いやー 今ー お茶休み してるから あのー よかったら 一緒に

オチャデモ ノンダラ。
お茶でも 飲んだら。

002B：ンデ ヤスンバーッテ。
それでは 休もうって。

(7) 訪問時の声掛け：昼間、BがC宅を訪れるときの声かけと、Cの返事。

001B：イッケー。
いるかい。

002C：イルヨー。(B イルヨーッテ) ハーイジャーネー。(B ハーイジャナクテ
いるよー。(B いるよーって) はーいじゃない。(B はーいじゃなくて

イルヨー)
いるよー)

003B：アー イダノゲーッテ。
ああ いたのかいって。

(8) 借用の依頼と受諾：BがXにスコップを借りるときのやりとり。(Xが貸す場合。)

001B：イマー ウチデ スコップ ミアタンナインダケド カシテ モラエッケーッテ
今 うちで スコップ 見当たらないんだけど 貸して もらえるかいって

ハイッテクンノ
入ってくるの

002E : カシテモラエツケー
貸してもらえるかい。

003B : カシテモラエツケーツテ ハイッテクンデス。{笑}
貸してもらえるかいって 入ってくるんです。{笑}

004B : アー イーヨー。
ああ いいよ。

(9) お礼 : Bが借りたスコップをXに返しに行ったときのやりとり。

001B : イヤー オカケ° サンデ アノ ナンダ オカケ° サンデ ナンダ
いやー おかげさまで あの なんだ おかげさまで なんだ

ヤグニタッタドガ ハガイッタヨートガ。
役に立ったとか 捗いったよーとか。

ハガイッタヨーツテ。ドーモ アリカ° トーネー。
捗いったよーって。どうも ありがとうねー。

(10) 破損の謝罪・許容・不満 : BがXに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(10-1) Xが構わないという場合。

001B : スコップ アノ エノトゴ オレツチャッタングダ イヤ ワルガッタネー。
スコップ あの 柄のところ 折れちゃったんだ いや 悪かったねー。

カッテ カエスヨーツテ。コーイーフーニ。
買って 返すよーって。 こういうふう。

002E : カマワナイヨツテ。
かまわないよって。

003B : イーヨイーヨ。ドーセ モノナンテ コワレル モンナンダガラ キニ シナイデ。
いいよいいよ。どうせ ものなんて 壊れる ものなんだから 気に しないで。

(10-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

《解説》

この場面に対応する会話は収録できなかった。破損されても不満を述べることはないため。

(11) 誘いと断り：BがXを近くの物産市に誘う際のやりとり。(Xが断る場合。断る理由は、家族と外出の先約。一人で演じたため、Xの役もBの音声)

001B：サンキ° ヨーサイ イカナイケー。ヨガッタラ イゴーヨ。
産業祭 行かないかい。良かったら 行こうよ。

キョーワ オテンキモ イーシ。
今日は お天気も いいし。

002B：デ コトワルノワ イヤー キョーワ チョットー ムスメカ° マコ°
で ことわるのは いやー 今日は ちょっとー 娘が 孫

ツレテクッカラ チョット ソノ ジカンニワ イゲナインダヨネー。モシ
連れてくるから ちょっと その 時間には 行けないんだよねー。もし

イケタラ アノ アシタ イクケド ドーオト。
行けたら あの 明日 行くけど どうおと。

(12) お見舞い：体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。
(12-1) Aの調子がいい場合。

001B：Aチャン ナンカ カゼ ヒーテルutte ハナシダゲド ドーシテーutte。
Aちゃん なんか 風邪 ひいてるって はなしだけど どうしたーって。

デ、ムコーデ ナンダカンダ イッテ。アーソーケ ンジャー アレ アノー
で、向こうで なんだかんだ 言って。あーそうかい それじゃー あれ あのー

イマ サムイカラー アノー カゼモ ヒクンダヨネ。マー オダイジニネ。
今 寒いからー あのー 風邪も ひくんだよね。まあ お大事にね。

ネテレバ ナオッカラ。
寝てれば 治るから。

(12-2) Aの調子が悪い場合。

001B：マーダ ダメナンダ。ネツ アルノーutte。
まーだ だめなんだ。熱 あるのーって。

002B：ネツ アルンダヨーナンテ。
熱 あるんだよーなんて。

003B：ンジャ マーダマダ ヤスムホガ ナイワ、コレワ。
それじゃ まーだまだ 休むほか ないわ、これは。

(13) 申し出：体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001B：ナニカ アノー ヤクダツコト アッタラ ユツテ チョーダイ。
何か あのー 役立つこと あったら 言って ちょうだい。

(14) 禁止：片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを制止してどのようにいうか。

○その1

001B：カタツケテ モラッテ モーシワゲナインダゲッド アノー ソレー
片付けて もらって 申し訳ないんだけど あのー それー

ソノ シャシン ダイジナ モノ ナンダヨネーッテ。ワルインダケド ソレ
その 写真 大事な もの なんだよねーって。悪いんだけど それ

トツテオイデ クレナイ。
とっておいて くない。

002E：ソレニタイシテ トツテオクホーノ カタズケテイタ ヒトワ ナントイウフーニ
それに対して とっておく方の 片付けていた 人は 何というふうに

タイオーシマスカ。
対応しますか。

002B：アー ソーケ ソーレワ ワルガッタネー。ンジャー アノー ココエ
あー そうかい それは 悪かったねー。それじゃー あのー ここへ

オイトツカラネーッテ。 アトデ ミテ チョーダイネーッテ。
置いておくからねーって。後で 見て ちょうだいねーって。

○その2：自分の子供に対して

001B：ダメダヨ。ソナトゴ ステチャッテワートガネ。
だめだよ。そんなところ[に] 捨てちゃっては一とかね。

注

[1] コンバンワ

同年配にはこの挨拶を使う。年寄りに対してはオバンデスを使う。

[2] タイヘンダネー

同じ文脈でハカイクネーも使うが、あまり使わない。年寄りはオカセキ° ナンショ°ともいう。わかれるときに使う。男の人が使うことが多い。オカセキ° ナンショ°は自分の世代では使わない。80代以上が使う。